

## HP 公開文

研究課題 「当院における門脈血栓に対して AT-Ⅲ製剤で治療した症例の検討」  
について研究協力をお願い

### 【目的】

門脈血栓は、種々の原因により発生し、その約3/4が肝硬変に合併します。門脈血栓は、肝予備能の低下や消化管出血、腹水貯留などの合併症を来し、予後を悪化させる一因となります。しかし、現在、門脈血栓に対する治療薬として保険適用となっているものはAT-Ⅲ製剤のみであり、AT-Ⅲ製剤の投与により約55%で門脈血栓が消失もしくは縮小しますが、その原因が除去されなければ、再発する可能性があり、維持療法が必要な症例が存在すると考えられます。また門脈血栓は、自然経過でも約20%で自然消失することもあり、自然消失する場合には、過剰な治療となる可能性があります。そのため、2015年5月～当院にて門脈血栓に対してAT-Ⅲ製剤で治療した症例の経過を検討することにより、治療の必要性および維持療法の必要性について明らかにすることを目的とする。

### 【対象】

当院にて門脈血栓と診断され、AT-Ⅲ製剤にて治療された方

### 【方法】

電子カルテ等の診療情報データよりデータを収集し、解析・検討します。

### 【研究期間】

[倫理委員会承認日]より 2027年12月31日

### 【個人情報について】

当研究のデータ収集に際しては、個人が特定されないように匿名化した上で収集し、検討を行います。また、情報は院内において厳重に管理されます。学会などで研究の成果が発表される場においても、対象者様が特定されることはありません。

本研究は、日常の一般診療として行われたものの観察研究であり、新たに痛みを伴うものではありません。また、研究は当院の倫理委員会の承認を得ております。当研究に関してご質問がある方や、対象となる方でご自身のデータが研究に利用されることを拒否される場合は、お手数ですが平日の9時から17時の間に下記医師までご連絡・ご相談頂きますようお願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構京都医療センター

消化器内科 医師 岩本 諭

電 話 (075) 641-9161 (代表)